

“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/>

令和4年7月①

住職 恩田仁志

gen-chouanji@aka2.gmobbb.jp



### ◆“愛語”こそ

（一般的な現代語解釈例）  
 …憎い敵を説き伏せ、権力者同士を和解  
 させて争いを回避させるのも、慈愛の言葉  
 が根本なのです。…

修証義四章二十二節

… 怨敵おんてきを降伏こうぷくし、君子  
を和睦わくならしむること愛語  
を根本とするなり …


“愛語”の節の最後は、次の通りです。

「・・・愛語能く廻天の力あることを学すべきなり」  
つまり、「愛語こそ人の意思を動かし、世界をも変えていく力があることを知らなければなりません。」という意味になります。

お釈迦様の次の言葉は、今年に入ってから何度か新聞紙上でも掲載され、またこの寺報でも紹介しました。



「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」



敵としている相手側に、自分の身を置いてみなさい、その気持ちに添ってみなさいということです。戦いの背後にいる子供やお年寄り、また軍事施設でない建物、まして病院や学校などを攻撃の目的にするなど、自分の側であつたらどうであるか考えなくとも、あつてはならぬことです。

一方、世界を見渡すと、次のような教えの国々もあります。

「目には目を 歯には歯を」

被害を受けたら、その報復を行うのは当然であるということで、俗に言えば“やられたら やり返せ”。

過剰な報復ではなく、やられたことと同等という制限を意味するそうですが、これでは争いの止むことは難しいのではないのでしょうか。愛語をもって和睦する考えとはずいぶんと解離しています。

政治・政策論に立ち入ることはしませんが、ロシア・ウクライナ間の戦争や、国防についての話題に一抹の不安を感じます。

私たちは、身近におこる<sup>いさか</sup>諍いを愛語をもって解決することを学び、力によらず国際紛争を鎮めていく願いをもった人となっていきたいと思います。

## ◆落雷さんの落語の楽しみは今秋に

今月の塔婆裏文は「一笑千山青」

“いっしょうすれば　せんざんあおし”と  
読みます。

つらいこと、苦しいこと、あるいは行き詰まりを感じる時、笑う事で不安や心配事は無くなり、進むべき道が見えてくるということ。“笑い”を心がけたいものです。

ところで、みんなでいっしょに大笑い  
の場をと企画された婦人会総会の落語  
ですが、急激なコロナ感染拡大を受け  
て急きょ取り止めとなりました。

「クスクスッと笑ってね」では意味がありませんので仕方無いことと思います。

代替え日を今秋に設定できるよう、検討しています。  
できるだけ早くにお知らせする予定です。

一笑千山青